

ISフラッシュ外部用サンド技術資料

1. ISフラッシュ外部用サンドの特長

- ① モルタルの軽量化及び、亀裂・剥離防止により、耐震性大幅向上
 - 従来工法によるモルタル塗りはセメントの収縮という性質のための亀裂・剥離を生じ易い欠点がありましたが、ISフラッシュ外部用サンドモルタル工法では躯体と中塗り及び上塗りモルタルの間に弾力層をつくり、力を吸収・分散させる為、亀裂・剥離・剥落リスクが大幅に減少します。
 - 外部からの衝撃や構造クラック等に対し、力を吸収・分散することに加え、砂モルタルより約1/2軽い軽量モルタルが出来上がる為、地震に対する耐震性が大幅に向上します。
- ② 塗り易く、作業性抜群
 - ISフラッシュ外部用サンドモルタルはエチレン酢酸ビニル発泡体（EVA）を粉砕した骨材を使用する為、砂に比べて表面積が非常に大きく断熱性及び保水性がよく、且つコテで押しつけて塗ることにより圧着され、表面のノロが下地に付く量が多くなるので、シーラー処理又は水打ちだけで塗ることが可能です。
 - 適度の粘性のため、コテすべりが良く作業性は抜群です。
- ③ クシ目が同時に完了、タイル下地調整に最適（中塗りはピンネット工法を推奨します。）
 - 骨材に弾性力があり、塗り付け後に復元する為、凹凸面が自然にできるのでクシ目を入れる必要がありません。
 - また、下地が凹凸面になる為、タイルの張り付け材の食い付きが良くなり、タイル施工時の下地調整材（下塗り材）として最適となります。（接着強度はP.6参照）
- ④ 施工面積が広く、経済的
 - ISフラッシュ外部用サンド1袋当たりの施工面積は広い為、平米単価を計算し、他の軽量モルタルと比較すると、安価となる傾向があり、経済的です。
 - そのため、大規模修繕等で、広く下地調整材が必要な場合は、コストメリットを享受できる可能性があります。
- ⑤ 補修用（薄塗り）としても使用可能
 - ISフラッシュ外部用サンド「Cタイプ（セメント25kg用）」は、骨材の大きさが1.5mm以下であり、補修用として使用（薄塗り）が可能です。

2. 標準施工法

① 施工上の注意

- 塗り付ける前に、下地のホコリ、油等は必ず清掃して下さい。剥離の原因となります。
- 塗り付け前の水養生は必ず行ってください。セメントの性質上、下地吸水又は、水が不足すると必ず硬化不良（ドライアウト）を起こします。
- 塗り付けは水が引いてから行ってください。また「冬場や室内等、水分の蒸発が少ない場合」を除いて、翌日の水しめしも必ず行ってください。ALC板のような下地の吸水が特に激しい場合はシーラー処理（エマルジョン樹脂3倍希釈液等を塗布）をしてください。
- 極端な薄塗りは避けてください。ISフラッシュ外部用サンドモルタルは塗り易いため、能率を上げるなど、極端な薄塗りをしますと弾力層を形成することができず、ドライアウト、亀裂・剥離が起こる原因となりますので、必ず5mm以上塗り付けてください。（「Cタイプ」は補修用のため、薄塗り可能）
- コテ圧を掛けてください。コテ圧を掛けずに簡単に塗り付けますとノロ接着剤効果が得られないので接着不良を起こす場合がありますので、必ず普通モルタルと同じくらいのコテ圧をかけて塗り付けてください。
- 気温が5℃以下の場合は作業を中止するか適当な保温処理をして下さい。一般にセメント強度は3℃以下になると急激に低下し、また養生中に凍結しますと強度は永久に阻害されますので、防凍剤を混入するか、保温処理を行ってください。この場合、局所的な昇温は避けてください。
- 混練り後40分以上経過したISフラッシュ外部用サンドモルタルは使用しないでください。

② ISフラッシュ外部用サンドモルタル調合比率

| | Aタイプ | Bタイプ・Cタイプ |
|-------------|------------|-------------|
| 普通セメント | 25kg×2袋 | 25kg×1袋 |
| 水 | 18ℓ～22ℓ | 9ℓ～11ℓ |
| エマルジョン樹脂（※） | 原液500g～1kg | 原液250g～500g |

※エマルジョン樹脂：3倍液型原液基準

- ISフラッシュ外部用サンドAタイプの場合、セメントを空合わせ後、水を徐々に入れながらエマルジョン樹脂原液を500g～1kg攪拌混練りしてください。
- 必ずISフラッシュ外部用サンドは1袋全量を1度に使用してください。
- 中塗りをする場合は、ISフラッシュ外部用サンドAタイプ1袋につき、珪砂（4～6号程度）を30kg程度混入、ミキシングをして使用して下さい。（B・Cタイプは15kg程度混入）